

G-2: 国際

開催日時・会場 9月4日(水曜日) 10:40-12:10 B202(2階)

海外ファンド機関とのパートナーシップによる 若手研究者の国際化支援

京都大学は、ドイツ学術交流会(DAAD)と共同で、「国連の持続可能な開発目標(SDGs)達成を推進しようとする若手研究者の研究交流の促進を図るマッチングファンドプログラム「DAAD-Kyoto University Partnership Program towards SDGs」を設立した。URAが海外資金提供機関と共同ファンドを立ち上げた事例としては、国内では初めての試みであろう。

国際共同研究の強化・促進は多くの大学が共通して抱える課題であり、そのためには若手研究者の国際的なネットワーク構築を支援する仕組みをより強化することが必要である。そこで、若手研究者の育成や国際化支援を担当する他大学のURAや資金提供機関、社会・企業を交えて取り組み事例を共有・議論してゆくことにより、新たな支援モデルへの展開を考えたい。

当セッションでは、京都大学およびDAADのプログラム担当者より、若手研究者の国際化の意義と課題を含め、本パートナーシッププログラムの設立経緯と枠組みについて紹介し、本枠組みでドイツに派遣された若手研究者からの現地での滞在・ネットワーク開拓の報告を行う。次に、ドイツとの若手研究者交流を支援する財団等が、取り組みの事例を紹介する。最後のディスカッションでは、持続的な支援プログラムの展開にむけた大学・URAと財団・社会との連携を含めた課題と展望について意見交換を行い、若手研究者の国際ネットワーク促進を広く支える機運を高めることを目指す。

(参考) 京都大学・ドイツ学術交流会(DAAD)パートナーシッププログラム

<https://www.oc.kyoto-u.ac.jp/exchange/kyoto-daad-reports/>

オーガナイザー



鈴木 環: 京都大学 学術研究支援室(KURA) URA

慶應義塾大学大学院 政策・メディア研究科(環境デザイン)修士課程修了、博士課程単位取得満期退学、パリ大学第一大学院留学。(独)国立文化財機構 東京文化財研究所 研究員、国際協力機構(JICA) 専門家を歴任し、西・南アジア・欧州の文化遺産国際協力事業に携わる。2014年より現職、京都大学欧州拠点の運営を通じた国際共同研究支援、人文社会学支援、若手研究者の国際化支援を中心に担当。



桑田 治: 京都大学 学術研究支援室(KURA) URA

京都大学にて理学部卒業/大学院理学研究科修了(生物物理学専攻・理学博士)。視覚受容の分子機構解明をテーマに複数の大学で研究職に従事(慶應大・医学・助手、米国イリノイ大・研究員、筑波大・生物系・助手、九州大・理学・リサーチレジデント)。東京都内で約10年間の民間企業勤務(特許翻訳者/技術者)を経て、2016年4月より母校を勤務先とする現職に。部局系URA業務全般のほか外国人研究者支援を担当。



仲野 安紗: 京都大学 学術研究支援室(KURA) URA

東京藝術大学大学院美術研究科文化財保存学専攻(保存修復建造物) 修士課程修了、博士課程研究指導認定退学。文化庁新進芸術家海外研修員としてMansilla+Tuñón Arquitectos(マドリッド)に勤務、国立王室コレクション美術館を担当。以降、7年間にわたリスペインを中心に近代建築保存修復・設計に携わる。帰国後、京都造形芸術大学美術館大学構想ディレクターに着任(~2012年)、NPO法人Drifters International 理事(~現在)。2014年から現職、若手研究者を中心とした研究環境に関する支援を担当。



園部 太郎: 京都大学 学術研究支援室(KURA) URA

同志社大学工学部卒業、京都大学大学院エネルギー科学研究科修了後、タイ国エネルギー環境合同大学院大学(JGSEE)、キングモンクット工科大学トンプリー校にてPh. D (Energy Technology)取得後、2007年より京都大学にてポスドク、グローバルCOE助教を経て2012年1月より現職。京都大学ASEAN拠点、欧州拠点、学術研究支援室を循環し、本学の研究環境の国際化を担当。

G-2: 国際

講演者



Dorothea Mahnke: ドイツ学術交流会 (DAAD) 東京事務所 所長

2017年3月よりドイツ学術交流会東京事務所所長、ドイツ科学・イノベーションフォーラム東京ディレクター。ポーフム大学で日本学専攻後、JETプログラム(外国語青年招致事業)、「ドイツ同窓会ポータルサイト」DAAD初代コーディネータ、DAADボン本部国際高等教育マーケティング コンソーシウム「GATE-Germany」を経て現職。高等教育マネジメント学修士。



小川 研之: 中谷医工計測技術振興財団

京都大学工学部数理工学科を卒業後、NECに入社。ソフトウェア製品の開発、企画、販売促進に従事。退社後はコンサルタントとしてJETRO、シリコンバレーのベンチャー企業等々の海外展開の支援をしてきた。現在は中谷医工計測技術振興財団で国際的な活躍できる研究者の育成を目的に学部学生の短期留学を支援する国際学生交流事業に携わる。



雪野 弘泰: 山岡記念財団 常務理事

京都大学農学部農業工学科卒業後、ヤンマー入社。農業機械の開発・企画、研究開発マネジメントを経て、社長室を担当。2015年からオープンイノベーション、新規事業を担当するなかでSDGsの企業としての取組みに関与。現在は、ヤンマーの企業財団として、2016年に設立した山岡記念財団にて、持続可能な社会を目指した日独の学術・文化交流事業を企画、展開している。



Jeffrey Robens: Springer Nature, Magazine and Research Services, Editorial Development Manager

米国のペンシルベニア大学を卒業後、理化学研究所や京都大学を含む様々な研究機関に勤務。生命科学分野の研究者であり、著者・査読者でもある。現在は、ネイチャー・リサーチの編集開発マネージャーとして、研究・出版における経歴を生かし世界中でワークショップを開催。特に英語を母国語としない研究者を対象として、論文発表に至るまでのノウハウを提供、論文の品質向上に努めている。

宮崎 亜矢子: Springer Nature, Communications シニア・コミュニケーションズ・マネージャー

英国のインペリアルカレッジロンドンを卒業後、博士号を取得。専門分野は、有機金属化学およびケミカルバイオロジー。エンターテインメント企業での勤務を経て、理化学研究所において科学技術振興機構(JST)の研究プロジェクトに携わる。名古屋大学トランスフォーマティブ生命分子研究所(WPI-ITbM)で研究推進および拠点形成に従事した後、現職のシュプリンガー・ネイチャーでコーポレートコミュニケーションズを担当。

西岡 千文: 京都大学 附属図書館 助教

京都大学附属図書館研究開発室助教。慶應義塾大学理工学部卒業、慶應義塾大学大学院理工学研究科博士前期課程修了、キール大学大学院工学研究科博士後期課程修了を経て現職。博士(工学)。キール大学在籍時の研究拠点はドイツ国立経済学図書館であり、ドイツ学術交流会(DAAD)奨学生として滞在。専門は情報工学。論文・図書などの学術情報探索・推薦、ならびに学術情報流通の分析に関する研究に携わる。